

新しいスタイルの農家を創造 ～仲間との想いを込めて

高松 利彰（たかまつ としあき）
株式会社 なな実 代表取締役

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第6回コンクールで奨励賞を受賞した「株式会社なな実」代表取締役の高松利彰さんにお話を伺いました。

《法人化・6次産業化》

せたな町は、北海道の南西部で日本海に面して、平成17年に瀬棚町、北檜山町、大成町の三つの町が合併してできた町です。温暖な気候と豊かな自然の中で稲作を中心に畑作、野菜、酪農、畜産など多種多様な農業が特徴です。

高松さんは、家業の農家の四代目として28歳で後を継ぎ、平成22年、生産・販売など独自の事業展開を行うために法人化すべく、株式会社なな実を設立しました。後を継いだ当初は米作りが主体でしたが、法人化した頃に畑作物主体へ変更し、経営の強化を図りました。おもに作られているのはじゃがいもです。じゃがいもの味には自信がありましたが、いざ、売り込みに行っても「せたな町のいも」のイメージが無かったため、販売拡大に苦戦しました。どうしたら売れるのか…いろいろと考えた末に、カラフルな色合いのじゃがいもの販売を始めたところ徐々に支持されるようになり、最初は25種類でしたが現在は55種類にもなっています。

農作物の生産の他にも、農協のライスターミナルの受託事業を請け負い、お米の乾燥・^{もみす}糲摺り調整の事業を地域と連携しながら取り組んでいます。また、じゃがいもを中心に冷凍コロケなどの6次産業化（製造・販売）を開始し、地元の地域活性化にも繋がっています。



《じゃがいもFACTORY》

自分たちが生産した物を直接販売したいという想いから、令和2年11月に函館市内に農家直営じゃがいも専門店「じゃがいもFACTORY」を開店しました。男しゃく、メークイン等のおなじみの品種のじゃがいもはもちろん、見た目もカラフルなじゃがいもの販売のほか、フライドポテトやじゃがいもソフトなども加工製造して販売をしています。「なな実のじゃがいもはとてもおいしい!」と好評で、繰り返し購入してくれるお客様が増えてきています。

《今後の展望》

これまで、年々規模を拡大していき、じゃがいもは年間700トンの生産量になりました。品種数も道内ではトップレベルです。

近年は、記録的な高温による猛暑日の影響があり、じゃがいもの病気が多くなっています。生育状況を把握するとともに、もっと勉強し知識を増やして、少しでも病気に対するリスクを回避し、出荷量を増大していきたいと考えています。そして、今後も仲間と色々なアイデアを出し合って、なな実のじゃがいもをせたな町から届けていきたいと思っています。



カラフルなじゃがいも商品の一部

※当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。